

第3章

訓練・演習に関する諸施策

第1節 訓練・演習に関する取組

防衛省・自衛隊が、わが国の防衛の任務を果たすためには、平素から、防衛力の中核である各隊員および各部隊が常に高い練度を維持、向上させることが必須であり、高い能力・練度こそが、わが国の抑止力・対処力の根幹をなすといえる。

防衛省・自衛隊は、様々なハイレベルの共同訓練・演習および他省庁・自治体を交えた各種演習を積極的に実施し、抑止力・対処力のさらなる向上に努めている。

また、自国の平和を維持するためには、抑止力・対処力を強化するのみならず、自国を取り巻く安全保障環境

の安定化が不可欠である。そのため、防衛省・自衛隊は、自由で開かれたインド太平洋（FOIP）の実現に向けた取組として、広くインド太平洋地域において同盟国・同志国などとの共同訓練を積極的に推進している。特に、わが国の安全保障と密接な関係を有するインド太平洋地域において、パートナーシップを強化するとともに、共同訓練などといった共通の努力を同盟国・同志国などを行い、各国の能力・練度の維持・向上および共同・連携による抑止力・対処力の強化により、相乗効果を発揮することで、力による一方的な現状変更やその試みを許さ

図表Ⅳ-3-1-1 わが国独自および日米同盟を基軸とした主要訓練



ない安全保障環境の創出を図っている。そのほか、一国のみでは対応が困難なグローバルな安全保障上の課題や不安定要因の対応に向けた連携強化にも努めている。

□ 参照 図表Ⅳ-3-1-1 (わが国独自および日米同盟を基軸とした主要訓練)

1 わが国自身による各種事態への対処力強化に資する訓練

1 自衛隊の統合訓練

平素から陸・海・空自の統合運用について訓練を積み重ねることにより、自衛隊の抑止力・対処力がシームレスに遺憾なく発揮されるように準備しておくことが重要である。

このため、自衛隊は、1979年以来、統合運用を演練する自衛隊統合演習(実動演習)および自衛隊統合演習(指揮所演習)をおおむね毎年交互に実施している。また、大規模災害など各種の災害にも迅速かつ的確に対応するため、各種の防災訓練を実施しているほか、国や地方公共団体などが行う防災訓練にも積極的に参加し、各省庁や地方公共団体などの関係機関と連携強化を図っている。

さらに、海外における緊急事態においては、在外邦人等の輸送または保護措置を速やかに実施できるよう、自衛隊は、平素から訓練を実施している。

(1) 自衛隊統合演習「JX」

Joint Exercise

2023年11月、自衛隊は、日本全国において令和5年度自衛隊統合演習(実動演習)「05JX」を実施した。本演習は、自衛隊が実施する統合訓練の中で最も大規模な実動訓練であり、陸・海・空自から約3万人が参加し、グレーゾーンから武力攻撃事態にいたる一連の状況を想定



令和5年度自衛隊統合演習「05JX」における水陸両用作戦の演習
(2023年11月)

して、宇宙・サイバー・電磁波を含めた様々な領域において、武力攻撃に対処するための訓練を総合的に実施した。また、一部の訓練には、米軍が参加し、日米の連携要領の維持・強化も図った。なお、本演習では、空自戦闘機などによる民間空港を利用した訓練を、統合訓練として初めて実施したほか、民間船舶・港湾を利用した部隊の機動展開訓練、米軍基地の共同使用、離島における防災訓練なども実施し、実戦的かつ高度な演習を通じて自衛隊の統合運用能力の維持・向上を図った。

(2) 自衛隊統合防災演習「JXR」

Joint Exercise for Rescue

自衛隊は、大規模地震発生時における自衛隊の指揮幕僚活動、主要部隊間の連携要領、防災関係機関や在日米軍などとの連携に関する防災訓練を行うことで、災害対処能力の維持・向上を図っている。2023年6月に実施された本訓練では、南海トラフ地震が発生したことを想定し、孤立地域が発生した状況において、孤立地域への部隊・装備品などの緊急輸送、沿岸部の孤立した被災地域への物資輸送などにかかる訓練を実施し、対応方針の検証を行い、自衛隊の災害対処能力の向上を図った。

(3) 離島統合防災訓練「RIDEX」および日米共同統合防災訓練「TREX」

Remote Island Disaster Exercise

Tomodachi Rescue Exercise

離島における突発的な大規模災害への対処について、実動により訓練し、自衛隊の離島災害対処能力の維持・向上および米軍・関係防災機関などとの連携強化を図っている。

(4) 「防災の日」総合防災訓練

防衛省・自衛隊は、大規模地震発生時において、迅速かつ組織的な自衛隊の災害派遣などを行えるよう、首都直下地震発生時を想定した防衛省災害対策本部運営訓練を2023年9月1日に実施した。また、地方公共団体が実施する防災訓練などに参加した。

解説

令和5年度自衛隊統合演習（実動演習）「05JX」

わが国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増すなか、防衛力の抜本的強化の実現に資するため、2023年11月、自衛隊が実施する演習として最大規模となる令和5年度自衛隊統合演習（実動演習）「05JX」を実施しました。

本演習では、統合対艦攻撃・統合防空ミサイル防衛といった陸・海・空の作戦に、宇宙・サイバー・電磁波といった領域を取り込み領域横断的に訓練することにより、作戦遂行能力の向上を図ることができました。また、これまでは陸上作戦、水陸両用作戦などの訓練を機能別に実施してきたところ、これらの作戦を有機的に接続させて総合的に実施するとともに、作戦司令部における指揮所活動と現場部隊の動きを緊密に接続させたことで、作戦レベルと戦術レベルの融合を図りました。その結果、05JXはこれまで以上に実践的かつ高度なものとな

りました。

05JXを実施するにあたり、住民の皆様の深いご理解および関係自治体のご協力により、岡山空港、大分空港、奄美空港、徳之島空港において戦闘機の離着陸訓練などを実施することができました。また、本演習の一部に米軍が参加し、オブザーバーとして、オーストラリア、カナダ、フランス、ニュージーランド、フィリピン、韓国、英国、ドイツおよびNATOが参加したことにより、同盟国・同志国との連携強化にも寄与することができました。

防衛省・自衛隊は、力による一方的な現状変更やその試みを断じて許さないという強い意思のもと、このような訓練を通じ、わが国の平和と安全を守り抜くため、抑止力・対処力の一層の強化に取り組んでいます。



岡山空港に展開したF-2戦闘機



統合防空ミサイル防衛訓練実施中のイージス艦「まや」CIC



資料：自衛隊の部隊訓練について

URL：<https://www.mod.go.jp/j/approach/defense/training/index.html>

資料：統合演習・訓練

URL：<https://www.mod.go.jp/js/activity/training.html>

(5) 大規模地震時医療活動訓練

防衛省・自衛隊は、内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練に参加し、災害派遣時の各種行動や防災関係機関との連携要領を演練し、災害対処能力の維持・向上を図っている。2023年9月に実施された本訓練では、防衛省・自衛隊を含む関係機関（警察庁、消防庁、厚生労働省（災害派遣医療チーム（DMAT）含む。）、国土交通省、海上保安庁など）に加え、複数の自治体（徳島県、香川県、愛媛県、高知県、大分県、宮崎県）が参加し、南海トラフ地震を想定した実動訓練を行った。



各自治体、DMATなどと連携して災害対応の訓練を行う隊員（2023年9月）

(6) 統合展開・行動訓練（中東アフリカ地域）

[FD]

Furnace Darter

2022年12月、ジブチとヨルダンの協力を得て、中東・アフリカ地域の実環境下で在外邦人等の保護措置に関する訓練を実施した。本訓練では、派遣統合任務部隊の部隊展開後から在外邦人等の警護輸送までの行動に関し、関係機関、米軍、イタリア軍、フランス軍との連携強化を図った。なお、本訓練の教訓などは、2023年4月の在スーダン共和国邦人等の輸送および同年10月の在イスラエル国邦人等の輸送において活かされた。

参考 Ⅲ部1章7節2項（在外邦人等の保護措置および輸送への対応）、Ⅲ部3章1節2項11（15）（ヨルダン）、Ⅲ部3章1節2項12（2）（ジブチ）

2 各自衛隊の訓練

統合による防衛力が十分に発揮される大前提は、各自衛隊の高い練度である。そのため、各自衛隊においては、隊員個々の訓練と、部隊の組織的な訓練を継続的に実施し、それが、精強な自衛隊の基礎となっている。

(1) 陸上自衛隊

陸自は、方面隊規模での実動演習を実施し、各種事態などへの対処能力の向上を図っている。また、全国の陸自部隊による陸上自衛隊演習を実施し、各種部隊行動の演練を通じて任務遂行能力や運用の実効性向上を図るとともに、抑止力・対処力の強化に寄与している。

そのほか、国内外における米空軍機などからの空挺降下訓練、水陸両用作戦にかかる訓練、中SAM/SSM部隊の実射訓練などを実施し、統合・共同による領域横断作戦に必要な各種戦術技量の向上を図っている。

(2) 海上自衛隊

海自は、艦艇部隊間や艦艇、航空機（空自を含む。）、陸上部隊（陸自を含む。）間の訓練を実施するほか、国内における機雷戦訓練や、米海軍の協力を得て、良好な米国の訓練基盤を活用した派遣訓練を実施し、各種戦術技量の向上を図っている。また、全国の部隊が実動する海上自衛隊演習（実動演習）を実施し、即応能力の向上を図っている。2023年11月に実施した「令和5年度海上自衛隊演習」では、グレーゾーンから武力攻撃事態までの一連の状況を想定し、指揮官の戦術判断および部隊運用要領を演練した。本演習は、海上自衛隊において過去最大の演習となり、米、豪、カナダ海空軍に加え、フィリピン海軍から初のオブザーバー参加を得て、対潜戦、対水上戦など各種戦術訓練を行い、海上自衛隊の任務遂行能力の向上、参加国海軍との連携強化を図った。

海自は、海上保安庁との連携も強化しており、2023年6月、防衛大臣による海上保安庁の統制要領の策定後、初めて海上保安庁と実動訓練を実施した。本訓練は、武力攻撃事態において海上保安庁を防衛大臣の統制下に入れ、住民の避難、船舶への情報提供および避難支援を行



資料：陸上自衛隊の教育訓練の概要

URL：<https://www.mod.go.jp/gsdf/about/training/index.html>



令和5年度海上自衛隊演習 (2023年11月)

うことを想定したものであり、訓練を通じて、海上保安庁と情報伝達要領などについて演練、検証を行った。そのほか、海上保安庁との共同訓練では、総合的な対処・連携強化にかかる訓練、不審船対処にかかる訓練などを実施し、共同対処能力を強化した。

参照 Ⅲ部1章3節1項3(2) (海上保安庁との連携強化)

(3) 航空自衛隊

空自は、戦闘機、レーダー、地对空誘導弾などの先端技術の装備を駆使するため、個人の専門的な知識技能を段階的に引き上げることを重視している。また、戦闘機



空白パトリオット実射訓練

部隊、航空警戒管制部隊、地对空誘導弾部隊などによる部隊ごとの訓練、部隊間の連携要領の訓練、さらに、航空輸送部隊や航空救難部隊などを加えた総合的な訓練も実施している。

例えば、空自は、全国の部隊が実動する航空総隊総合訓練(実動訓練)、PAC-3機動展開訓練、国外運航訓練などを実施し、機動展開能力、即応能力の向上を図っている。また、米国におけるパトリオットの実射訓練や、米国高等空輸戦術訓練センターを活用した訓練により、任務遂行能力の向上を図っている。



資料：海上自衛隊の訓練・演習

URL：<https://www.mod.go.jp/msdf/operation/training/>



資料：航空自衛隊の訓練

URL：<https://www.mod.go.jp/asdf/report/cat-kunren/>



2 日米同盟の強化に資する訓練

日米同盟は、わが国の安全保障にとって不可欠であり、その抑止力・対処力の強化にあたり、日米共同訓練は重要な役割を果たしている。自衛隊は、各軍種間の共同訓練や日米共同統合演習(実動演習および指揮所演習)を着実に積み重ねており、自衛隊の戦術技量の向上や米軍との連携強化などを図るとともに、地域の平和と安定に向けた日米の一致した意思や能力を示してきた。

1 統合による日米共同訓練

自衛隊は、1986年以来、武力攻撃事態などにおける自衛隊の運用要領および日米共同対処要領を演練し、自衛隊の即応性と日米の相互運用性の向上を図るため、日米共同統合演習「キーン・ソード」(実動演習)、「キーン・エッジ」(指揮所演習)を実施している。

2023年度は、令和5年度日米共同統合演習(指揮所演習)「キーン・エッジ24」を実施し、各種事態における日米共同対処および自衛隊の統合運用にかかる指揮・幕僚活動を演練した。本演習では、日米豪防衛協力の実効性を向上するため、初めて豪国防軍が参加し、指揮統制について演練した。このほか、日米共同による弾道ミサイルへの対処などの訓練を実施し、自衛隊の統合運用能力および日米共同対処能力の維持・向上を図った。



「キーン・エッジ24」で米軍と調整を実施する隊員(2024年2月)

2 各自衛隊の日米共同訓練

(1) 陸上自衛隊

近年、陸自は、中央・太平洋レベルなどの米陸軍および米海兵隊と運用上・戦略上の連携を強化している。共同訓練は、ハイレベル交流などとあわせ、日米共同対処態勢の抜本的な強化につながる取組として、進化・発展を続けている。

2023年度は、米陸軍と実施した「オリエント・シールド23」、米海兵隊と実施した「レゾリュート・ドラゴン23」など各種の共同訓練により、日米の連携要領の具体化および相互運用性の向上を図った。また、9年ぶりに積雪寒冷地における米陸軍との共同訓練「ノース・ウインド24」を実施し、日米それぞれの部隊が有する積雪地での戦術行動にかかるノウハウを共有するなど、あらゆる事態に対処しうる能力の向上を図った。



共同対艦戦闘訓練(陸自MLRS)(2023年9月)

ア 米陸軍との実動訓練「オリエント・シールド23」

陸自は、2023年9月、領域横断作戦と米陸軍のマルチ・ドメイン・オペレーションを踏まえた日米の連携能力向上に資する訓練を実施した。本訓練では、日米共同での共同対艦戦闘などの指揮所訓練を実施したほか、実動訓練では、陸自多連装ロケットシステム(MLRS)、米陸軍高機動ロケット砲システム(HIMARS)などによる

Multiple Launch Rocket System
High Mobility Artillery Rocket System



資料：進化する日米共同訓練(陸自)

URL：<https://www.mod.go.jp/gsdf/about/japan-us/index.html>



「レゾリュート・ドラゴン23」における実動訓練（2023年10月）



沖縄南方で米海軍「セオドア・ルーズベルト」、「カール・ヴィンソン」空母打撃群と共同訓練を行う護衛艦「いせ」（写真中央）（2024年1月）

実射訓練を含む対艦戦闘訓練、対戦車ミサイルや砲迫などの実射を含む米陸軍歩兵部隊との共同戦闘訓練を実施した。また、奄美大島において、米小型揚陸艇と連携した補給品の事前集積・輸送にかかる訓練を初めて実施するなど、実動で相互連携要領を演練し、日米の相互対処能力を向上させた。

イ 日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン23」

陸自は、2023年10月、領域横断作戦と米海兵隊の(EABO¹)を踏まえた連携を焦点としつつ、一連の島嶼防衛作戦について演練した。本訓練は、指揮所演習と実動訓練からなり、北海道、九州から沖縄にかけて実施した、国内における米海兵隊との最大規模の訓練である。実動訓練では、指揮所演習の成果を踏まえつつ、日米の指揮機関による戦闘指導と連携し、陸自の地对艦誘導弾(SSM)、多連装ロケットシステム(MLRS)、米海兵隊の高機動ロケット砲システム(HIMARS)などを活用した対艦・対空戦闘や対着上陸戦闘、共同兵站・衛生支援など、島嶼防衛に必要な訓練を実施した。また、陸自V-22(オスプレイ)が本演習に初めて参加し、日米オスプレイによる患者後送訓練を実施したほか、日米共同の滑走路復旧を実施するなど、島嶼部における作戦の持続性を向上させた。

(2) 海上自衛隊

海自は、伝統的に米海軍と精力的に共同訓練を実施してきており、艦艇や航空機による日米共同訓練、対潜特別訓練、掃海特別訓練、衛生特別訓練、日米衛生共同訓練を通じ、日米共同対処などの実効性や領域横断作戦能力の向上を図っている。

例えば、米海軍空母打撃群との共同訓練を着実に積み重ねるとともに、わが国周辺海域、東シナ海、南シナ海において幅広く日米共同訓練を実施し、日米同盟の抑止力・対処力を不断に強化している。また、2023年9月には、米海軍の無人水上艦と初めての共同訓練を行うとともに、陸自および米海兵隊との共同訓練や、空自および米空軍との搜索救助訓練「Rescue Flag Okinawa」など、他軍種を交えた日米共同訓練を積極的に実施し、総合的な抑止力・対処力強化に取り組んでいる。

(3) 航空自衛隊

空自は、1996年以来参加している米空軍演習「レッド・フラッグ・アラスカ」や、1999年以来実施している米空軍との共同訓練「コープ・ノース」などを通じ、日米同盟の抑止力・対処力を強化している。また、米海軍や米海兵隊との対戦闘機戦闘訓練、要撃戦闘訓練、防



動画：令和5年度国内における米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン」
URL：<https://youtu.be/rClkaLSKXW4>



動画：日米共同訓練Rescue Flag Okinawa
URL：<https://youtu.be/2wjXvLuzOwg?si=XFaa8P4RQaUVycJT>



1 機動展開前進基地作戦。敵の火力圏内において迅速に分散展開し、一時的な拠点を設置することにより前線での作戦を実行する作戦構想。

空戦闘訓練、戦術攻撃訓練、空中給油訓練、搜索救難訓練、編隊航法訓練などの各種日米共同訓練により、日米共同対処などの実効性の向上や領域横断作戦能力の向上を図っている。

例えば、2023年度は、米軍のF-35A/B戦闘機やB-1爆撃機、B-52爆撃機を含めた訓練を実施するなど、強固な日米同盟のもと、自衛隊と米軍の即応態勢を確認し、

あらゆる事態に対処する日米の強い意思と緊密な連携を内外に示した。

自衛隊と米軍は、引き続き、わが国の防衛および地域の平和と安定の確保のため平素から緊密に連携し、あらゆる事態に即応するため、万全の態勢を維持していくこととしている。

参照 資料28 (主な日米共同訓練の実績 (2023年度))

VOICE

米海兵隊との実動訓練「レゾリュート・ドラゴン23」に参加した隊員の声

陸自 第42即応機動連隊 普通科中隊長 3等陸佐 やまだ けんじ 山田 憲司

私は、第42即応機動連隊普通科中隊長として、「レゾリュート・ドラゴン23」に参加し、米側共同部隊と対着上陸戦闘訓練および総合戦闘射撃訓練を行いました。

特に、本訓練において、米海兵隊中隊長マクニール少佐の指揮する中隊と共同して行った対着上陸戦闘訓練では、日米の連携した火力発揮と流動的な防御戦闘により、多くの成果と教訓を得ることができました。また、海兵隊の崇高な使命感、高い規律・士気・能力を目の当たりにし、共に戦う仲間として、揺るぎない信頼感を覚えるとともに、南西防衛における日米同盟による抑止力の重要性を改めて実感しました。

言語の違い、文化の違いなどから多くの苦勞もありました。しかし、それらを乗り越え、作戦遂行にあたり、海兵隊の意見や考えを尊重しつつ、こちらの意見や考えを相手に伝えるなか、共通の価値観から生まれる絆や相互信頼により、良好な人間関係、協力態勢を築くことが

できたことに、充実感と達成感でいっぱいです。

今後も、自分の国は自分で守るという強い意志と覚悟をもって、わが国の平和を守り抜けるよう日々の訓練に取り組んでいきます。



日米中隊長間の第一線での調整 (筆者 (左))

3 日米に第三国を交えた多国間共同訓練

各自衛隊は、米国のみならず、第三国の参加も得たハイレベルな多国間共同訓練に積極的に取り組んでいる。オーストラリアや欧州諸国の軍隊を交えた訓練を通じ、自衛隊の戦術技量の向上を図るとともに、各国軍隊との連携および相互運用性を高め、わが国の抑止力・対処力を強化している。

1 陸上自衛隊

(1) 日米豪共同訓練「サザン・ジャッカル-23」

陸自は、2023年6月から7月にかけて、オーストラリアで実施された米豪軍との実動演習に参加し、重要施設などの防護、攻撃・防御および砲直射撃を含む各種地形に応じた射撃訓練を実施し、陸自部隊の作戦遂行能力の向上、米豪軍部隊との連携強化を図った。



米豪軍と対ゲリラ・コマンドウ作戦の訓練を行う陸自隊員（2023年7月）

(2) 日米豪共同指揮所演習「ヤマサクラ」(YS-85)

2023年11月から12月にかけて、わが国で実施したYS-85は、日米陸軍種による最大規模の指揮所演習であり、本年は、豪陸軍が初めて演習に参加した。

演習では、日米の海・空軍種の参加を得て、戦略レベルから作戦レベルの指揮幕僚活動を演練するとともに、作戦を支える兵站、衛生、人事などの要素も拡充して実施した。また、宇宙・サイバー・電磁波の領域を加えた

自衛隊の領域横断作戦と米陸軍のマルチ・ドメイン・オペレーションにかかる日米の連携要領を演練するなど、日米共同での対処能力の向上および日米豪3か国の連携強化を図った。

また、フィリピン、英国、カナダ、シンガポール、フランスが初めてオブザーバーとして本演習に参加し、相互の連携を強化した。

2 海上自衛隊

(1) 米国主催大規模広域訓練「LSGE23」

Large Scale Global Exercise

米国が主催する抑止力強化を目的としたLSGEの一環として、海自は2023年6月、沖縄東方から東シナ海に至る海空域で、空母2隻を含む米海軍、米空軍、フランス海軍、空自F-15戦闘機とともに日米仏共同訓練「Multi Big-Deck Event」を実施した。そのほか、日米豪加共同訓練「ノーブル・ウルフ」、日米加仏共同訓練「ノーブル・タイフーン」、日米加共同訓練「ノーブル・レイブン23」、日米仏共同訓練「ノーブル・バッファロー」など、インド太平洋地域において複数の共同訓練を行い、対水上戦、対潜戦など各種訓練を通じ、参加各国との連携強化を図った。



米空母「ロナルド・レーガン」・「ニミッツ」、護衛艦「いずも」、仏海軍最新フリゲート「ロレーヌ」、空自F-15戦闘機などが参加した日米仏共同訓練「Multi Big-Deck Event」(2023年6月)



動画：令和5年度豪州における米豪軍との実動訓練「サザンジャッカル-23」

URL：https://youtu.be/FR0-cFToS8I?si=y_yJs_XWpyh_YLC9

(2) 日米豪韓共同訓練「パシフィック・ヴァンガード23」

海自は、2023年7月、グアム島周辺海空域において、米海軍、米海兵隊、豪海軍および韓国海軍との共同訓練を実施した。本訓練では、対水上・対地射撃、対水上戦および対潜戦などについて演練を実施し、戦術技量の向上や参加各国との連携強化を図った。

(3) 日米印豪共同訓練「マラバール2023」

海自は、2023年8月、オーストラリア東方海空域およびシドニーにおいて米海軍、インド海軍、豪海軍および豪空軍との共同訓練を実施した。海自からは、護衛艦「しらぬい」および特別警備隊が参加し、対潜戦、対空戦、対水上戦、洋上補給などの訓練を実施し、参加各国との相互運用性の向上を図った。なお、今回のマラバールは、2022年に正式メンバーとなったオーストラリアが初めて主催した。FOIPの実現の中核となる4か国の枠組みで、「マラバール」を継続して実施してきた意義は大きく、引き続き関係強化に取り組むこととしている。

23」をそれぞれ実施した。機動展開訓練では、F-35A戦闘機などをグアム、オーストラリアに展開し、今後のローテーション展開を見据えた空軍種間の連携強化を図った。

(2) 日米豪基地警備共同訓練

空自は、2023年12月、日米豪で初めて基地警備共同訓練を実施し、相互の運用要領の共有などを通じて、基地警備体制の強化を図った。

(3) 日米豪共同訓練「コープ・ノース24」

空自は、2024年2月、グアムを拠点とする日米豪共同訓練「コープ・ノース24」において、海自とともに人道支援・災害救援 (HA/DR) Humanitarian Assistance/Disaster Relief の共同訓練を実施し、相互運用性のさらなる向上を図った。



日米豪共同訓練「コープ・ノース24」【米国国防省提供】

3 航空自衛隊

(1) 米豪展開訓練

空自は、2023年8月、日豪円滑化協定 (RAA) Reciprocal Access Agreement 発効後にF-35A戦闘機の米国・オーストラリアへの機動展開訓練を、同年9月に日豪共同訓練「武士道ガーディアン

4 同志国との二国間共同訓練

1 陸上自衛隊

(1) 日仏共同訓練 (実動訓練)「ブリュネ・タカモリ23」

陸自は、2023年9月、仏領ニューカレドニアにおいて、日仏陸軍種初となる2国間共同訓練を実施した。本訓練では、戦闘射撃や総合的な実動訓練を実施し、対ゲリラ・コマンドウ作戦にかかる作戦遂行能力および戦術技量の向上を図るとともに、仏陸軍との相互理解・信頼

関係を促進した。

(2) 日英共同訓練 (実動訓練)「ヴィジラント・アイルズ23」

陸自は、2023年11月、国内において英陸軍との共同訓練を実施した。本訓練では、潜入・偵察訓練、共同火力調整、戦闘射撃訓練、統合火力誘導訓練など島嶼防衛にかかる実動訓練を実施し、作戦遂行能力、戦術技量の向上を図るとともに、英陸軍との相互理解・信頼関係を



動画：令和5年度英陸軍との実動訓練(ヴィジラント・アイルズ23)

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=PlCrtAT-rSI>

促進した。なお、本訓練にあたっては、同年10月に発効した日英RAAが初めて適用された。

(3) 日印共同訓練 (実動訓練) 「ダルマ・ガーディアン23」

陸自は、2024年2月から3月にかけて、インドにおいてインド陸軍との共同訓練を実施した。本訓練では、対テロ戦にかかる作戦遂行能力および戦術技量の向上を図るとともに、インド陸軍との相互理解・信頼関係を促進した。

2 海上自衛隊

海自は、艦艇、航空機による寄港（航）の機会などを利用し、各国との二国間共同訓練および親善訓練を実施しているほか、豪海軍と「日豪トライデント」、インド海軍と「JIMEX」、フランス海軍と「オグリ・ヴェルニー」、カナダ海軍と「カエデックスKAEDEX」などの二国間共同訓練を定期的^{カエデックス}に実施している。なお、2023年7月に実施したインド海軍との「JIMEX2023」では、インド潜水艦を使用した対潜戦訓練を実施するなど、海自とインド海軍との相互運用性の向上を図った。



日印共同訓練「JIMEX2023」(2023年7月)

3 航空自衛隊

(1) 日仏共同訓練

空自は、2023年7月、国内において初となるフランス航空宇宙軍との共同訓練を実施した。本訓練では、空自のF-15戦闘機、フランス航空宇宙軍のラファール戦闘機などが戦術訓練を行い、日仏空軍種間の相互理解の促進、防衛協力のさらなる深化に加えて、空自の戦術技量の向上を図った。



日仏共同訓練において、フランス航空宇宙軍参加者と交流する空自隊員
(2023年7月)

(2) 日伊共同訓練

空自は、2023年8月、国内において初となるイタリア空軍との共同訓練を実施した。本訓練では、空自のF-15戦闘機、イタリア空軍のF-35A戦闘機などが戦術訓練を行い、日伊空軍種間の相互理解の促進、防衛協力のさらなる深化に加えて、空自の戦術技量の向上を図った。



動画：日仏共同訓練

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=MsUBOUlqcbM>



動画：日伊共同訓練

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=l-jE2KtNAns>



VOICE

日仏共同訓練に参加した隊員の声

空自 第9航空団整備補給群車両器材隊 空士長

近藤 智子

C'est une grande chance! (=絶好の機会!)

2023年7月、私は航空自衛隊とフランス航空宇宙軍との共同訓練に、フランス語通訳として参加しました。本訓練にあたり通訳要員の話初めて頂いたときの、飛び上がるような胸の高鳴りを今でも覚えています。ついに私の入隊動機が叶うからです。一方で、専門的な通訳はレベルが高いため、周囲の期待に押しつぶされそうでした。しかし、フレンドリーな性格や日本のおもてなし精神、そして大好きなフランス語を活かして、防衛協力・交流促進に尽力したい思いがありました。

本訓練1か月前から新田原基地の部隊に臨時勤務し、様々な準備を整えました。フランス航空宇宙軍の航空機が初来日して実施した共同訓練であったため、全てははじめから作り上げる必要がありました。各イベントの打ち合わせ、昼食会のメニュー作成、フランス文化や国民性のイメージ共有、日仏2か国語分の司会や解説の原稿作りなど、多岐にわたりました。また、日仏両国VIPの懇親会、職種間交流、お茶会、歓迎パーティーなどで通訳を担当しました。時には、通訳の枠を超えて、その場の状況を考えて臨機応変に動く必要があり、苦勞しましたが、日仏両国の懸け橋となり、この共同訓練を成功へ導

くことに貢献ができ、感慨無量です。

このように、自身の夢や希望を叶え、個人の能力を活かす機会が自衛隊にはあり、例えば語学の分野では、米軍など各国との共同訓練において活躍の場が広がっています。私は本訓練に参加し、新たな発見や出会いに刺激を受け、切磋琢磨する意欲が向上しました。今後も語学力を磨きながら、夢を叶え続けるため邁進していきます。

Merci pour tout et à très bientôt! (=色々とお難うございました。それでは、また!)



通訳業務に従事する筆者(左)

5 同志国などとの多国間訓練

1 陸上自衛隊

(1) 米インドネシア主催多国間共同訓練(実動訓練)「スーパー・ガルーダ・シールド23」

陸自は、2023年8月から9月にかけて、米・インドネシア陸軍主催、オーストラリア、英国、シンガポール参加による多国間共同訓練に参加した。本訓練では、空挺作戦および水陸両用作戦による島嶼奪回を共同で演練した。また、戦闘射撃訓練では、共同による攻撃戦闘を実射・実爆で演練するなど、島嶼奪回における作戦遂行能

力、参加国との連携を強化した。

(2) 米モンゴル主催多国間訓練「カーン・クエスト23」

陸自は、2023年6月から7月にかけて、モンゴル・米
国主催の多国間訓練に参加した。モンゴルで実施される本訓練は、国連PKOにかかる能力向上を目的とした世界最大級の多国間訓練であり、陸自は2015年以降、部隊を派遣している。「カーン・クエスト23」では、指揮所訓練や車列警護、文民保護などの実動訓練に参加し、



動画：スーパー・ガルーダ・シールド(陸上自衛隊)

URL : <https://youtu.be/IPs9uiblLOE?si=h8sBleNXVcRQc7VN>

PKOなどへの派遣に資する各種能力の維持・向上、ノウハウの獲得・蓄積および参加各国との相互理解の促進・信頼関係を強化した。

2 海上自衛隊

(1) 令和5年度インド太平洋方面派遣「IPD23」

Indo-Pacific Deployment

海自は、2023年4月から9月の4か月以上にわたり、護衛艦5隻、潜水艦1隻を含む水上・潜水艦の各部隊を派遣し、インド太平洋地域において航行する間、16か国、19寄港地を訪問し、17件の共同訓練・8件の親善訓練を実施した。

IPD部隊の一部は、米国主催LSGEに参加し、インド太平洋地域においてハイエンドな内容を含む訓練を実施した。また、インド海軍と「JIMEX2023」、米・カナダ海軍と日米加共同訓練「ノーブル・スティングレイ²」を実施したほか、米豪主催多国間共同訓練「タリスマン・セイバー-23」、日米印豪共同訓練「マラバール2023」といった豪海軍が主催する共同訓練に参加した。

さらに、IPD23部隊は、初となる日米豪比（フィリピン）4か国共同訓練に引き続き、米・豪海軍とのマニラへの共同寄港、日米豪比艦隊司令官などによる南シナ海の状況視察、日米比艦隊司令官懇談を実施するなど、日米比、日米豪比の連携を強化した。

太平洋島嶼国では、パプアニューギニア軍、キリバス警察と初の親善訓練などを実施し、わが国が同地域に継続的に関与する意志を示すとともに、寄港した6か国の太平洋島嶼国との各種交流を通じ、相互理解を促進した。

(2) インド太平洋・中東方面派遣「IMED23」

Indo-Pacific and Middle East Deployment

海自は、2023年1月から5月にかけて、インド太平洋・中東方面に掃海母艦などを派遣し、ペルシャ湾（バーレーン王国および同周辺海域）で実施された米国主催国際海上訓練（IMX/CE23）に参加し、主催の米国をはじめ、参加国海軍（英国、アラブ首長国連邦（UAE）、オマーン、サウジアラビア、バーレーンなど）と連携強化を図った。また、派遣に際し、インド、バングラデシュ、カンボジアなどに寄港し、これらの国を含む各国海軍などとの親善訓練などを通じて、同地域の安定と繁栄に深くコミットしていくというわが国の意思を示した。

(3) 米豪主催多国間共同訓練「タリスマン・セイバー-23」

陸自および海自は、2023年7月から8月にかけて、オーストラリアで実施された「タリスマン・セイバー-23」に参加した。本訓練は、米豪軍が主催する多国間訓練の中で最大規模のものであり、本年は日米豪を含む13か国が



「タリスマン・セイバー-23」に参加する陸・海自部隊（2023年7月～8月）



動画：令和5年度インド太平洋方面派遣 IPD23 第2水上部隊 活動記録

URL：<https://www.youtube.com/watch?v=x386tnv96MA>

2 本訓練では、米海軍ならびにインド太平洋地域へのコミットメントを強めるカナダ海軍とともに、海自潜水艦を使用した初の日米加共同訓練（対潜戦）を実施した。

VOICE

米豪主催多国間共同訓練「タリスマン・セイバー23」に参加した隊員の声

海自 輸送艦「しもきた」 LCAC整備員長 1等海曹 まつむら たかし 松村 貴志

私は、2023年に行われた「タリスマン・セイバー23」にエアクッション艇LCACの武器整備員として参加しました。LCACは、Landing Craft Air Cushioned 艦艇が近づけない砂浜に人員や装備品などを運ぶホバークラフト型の輸送艇で、多国間による水陸両用作戦を主とする本演習には、欠かせないものです。本演習期間中に、輸送艦「しもきた」に搭載しているLCACに不具合が発生しましたが、同じく訓練に参加していた米海軍のLCAC整備員の支援を受け、共

同で作業を行い、不具合を復旧することができました。昼夜を問わず作業をしてくれた米海軍LCAC整備員の協力に本当に感謝しています。

今後も日米共同における相互協力の機会は増えていくと思います。今回の経験を踏まえ、日米の連携強化のためには、ロジスティックスを含め平素からの日米の協力が重要であることを改めて認識しました。



米海軍整備員と海自LCACクルーおよび整備員
(筆者(2列目右から2人目))



LCACを艦内に収容する様子

参加した。陸自は、水陸機動団、第2高射特科群などが水陸両用作戦や、ミサイルの実射射撃³を含む対空戦闘、対艦戦闘にかかる訓練を実施した。海自は、IPD部隊の護衛艦「いずも」、輸送艦「しもきた」が本訓練に参加し、米海軍などととも水陸両用作戦訓練などを実施し、戦術技量の向上および参加国との連携を強化した。

催多国間共同訓練「パシフィック・エアリフト・ラリー」に初めて参加した。本訓練は、HA/DRにかかる能力向上、参加国空軍との連携強化を目的としたものであり、物料投下訓練、共同搭載しや下訓練などを行った。また、同訓練参加にあわせて、日比人道支援・災害救援共同訓練を実施し、HA/DRにかかる能力の向上およびフィリピンを含む参加国空軍との連携強化を図った。

3 航空自衛隊

(1) 米比主催多国間共同訓練「パシフィック・エアリフト・ラリー」

空自は、2023年8月、フィリピンで実施された米比主



動画：タリスマン・セイバー23

URL：<https://youtu.be/VQd81bYj31k?si=jALGVethhKM-rE9a>

3 対空戦闘訓練および対艦戦闘訓練では、米国以外では初となる03式地对空誘導弾(中SAM) および12式地对艦ミサイル(12SSM)の実射を実施した。

(2) 米空軍主催HA/DR共同訓練「クリスマス・ドロップ」

空自は、2023年12月、ミクロネシア連邦などにおいて米空軍が実施する「クリスマス・ドロップ」に参加した。空自からはC-130H輸送機が参加し、米軍が収集した日用品などの寄付物資を用いて海上への物料投下訓練を実施し、空自のHA/DR能力の向上や参加各国との連携強化を図った。

参照 図表Ⅳ-3-1-2 (同志国などとの二国間・多国間による主要訓練)、資料58 (多国間共同訓練の参加など (2020年度以降))



クリスマス・ドロップ

図表Ⅳ-3-1-2 同志国などとの二国間・多国間による主要訓練

